

報告書〔4〕 分析結果及びフローシート

4 鉛

分析実施機関名	整理番号 *	*	*	国際的な認証の取得	1. ISO 9001 2. ISO 9002 3. ISO 9003 4. ISO 14001 5. なし
分析主担当者名	*	分析主担当者の経験年数	年	分析主担当者の実績(検体数)	検体

注1) 分析結果 (mg/l)	標準偏差 (mg/l)	測定回数 (回)

注1) 2回以上の測定を行った場合は、平均値を記入する。

分析開始日	月	日
分析終了日	月	日

< フルム原子吸光法 >
試料の適量 ㉔
前処理(酸による分解) ㉕
一定容量とする ㉖
(試験溶液)
分液ロートへ ㉗ ㉘
くえん酸水素二アモニウム溶液(100g/l)10ml
メタケソールハール溶液(1g/l)2,3滴
アモニア水
わずかに紫色となるまで
ジエチルジチオカルバミン酸ナトリウム溶液(10g/l)5ml
酢酸ブチル ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝
抽出(2回抽出)
酢酸ブチル層
加熱 酢酸ブチルが揮散するまで
硝酸2ml
過塩素酸2ml
加熱 ほとんど乾固するまで
硝酸
一定容量
定量 ㉞ ㉟

< 分析法等 >

分析法	1. フルム原子吸光法 2. 電気加熱原子吸光法 3. ICP発光分析法 4. ICP質量分析法 5. その他()
測定波長(又は質量数)	㉡()nm 又は質量数()
試料の分取量	㉣()ml
前処理の方法	㉤ 1. 塩酸酸性で煮沸 2. 硝酸酸性で煮沸 3. 塩酸による分解 4. 硝酸による分解 5. 硝酸と塩酸による分解 6. 硝酸と過塩素酸による分解 7. 硝酸と硫酸による分解 8. 前処理を行わない
前処理後の定容量	㉥()ml
溶媒抽出	㉦ 1. 実施する 2. 実施しない
溶媒の種類 抽出回数 溶媒の使用量	㉧ 1. 酢酸ブチル 2. キシレン 3. その他() ㉨()回 ㉩()ml/回
最終溶液の液性	㉪ 硝酸酸性 2. 塩酸酸性 3. 有機溶媒

< 電気加熱原子吸光法 >
試料の適量 ㉔
前処理 ㉕ フルム原子吸光法と同じ
一定容量とする ㉖
(試験溶液)
分取(注入量) ㉗
硝酸ハランニウム溶液
定量 ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝

< 原子吸光法 >

分取量	㉡()ml
電気加熱 注入量 注入の方法	㉢() μ l ㉣ 1. 手打ち 2. 自動注入
バックグラウンド補正	㉤ 1. しない 2. 重水素ラップ 3. 偏光ゼーマン 4. その他()
原子化の方法 電気加熱炉	㉥ 1. 黒鉛炉 2. 耐熱金属炉 3. その他()
電気加熱 マトリックスの添加	㉦ 1. 添加しない 2. Pdを添加 3. Pd以外の添加 添加元素等()

< ICP発光分析法 >
< ICP質量分析法 >
試料の適量 ㉔
前処理 ㉕ フルム原子吸光法と同じ
一定容量とする ㉖
(試験溶液)
定量 ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟

< ICP発光分析法 >

分取量	㉡()ml
装置の型式	㉢ 1. 波長走査(シグマナル) 2. 波長固定(マルチ)
超音波ネグライザー	㉣ 1. 使用しない 2. 使用する
バックグラウンド補正	㉤ 1. 行う 2. 行わない
同時測定元素	㉥ 1. なし 2. あり(元素記号)()
測定時間	㉦()秒/元素

< ICP質量分析法 >

希釈水の純度	㉡ 1. 蒸留水 2. 1回交換水 3. その他()
バックグラウンド補正	㉢ 1. 行う 2. 行わない
同時測定元素	㉣ 1. なし 2. あり(元素記号)()
チューニングに用いた元素	㉤ 1. Li, Y, Tl 2. Li, Co, Y 3. Co, Y, La 4. Be, Y, Tl 又は Bi 5. Y, La, Tl 又は Bi 6. その他()

< 検量線の作成等 >

定量方法	㉡ 1. 検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 3. の場合の内標準物質 ㉢ 1. イットリウム 2. インジウム 3. ビスマス 4. その他()
検量線の作成	作成点数㉣() 濃度範囲㉤() ~ ㉥() μ g 最高濃度の指示値㉦() 空試験値指示値㉧()
試料の指示値	㉨()

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点

前処理について	-----
測定方法について	-----